

久斗山地区公民館だより



令和2年
12月号

24日発行

久斗山地区公民館

ご挨拶

今年の世相を反映する漢字は「密」だったそうです。今年の10大ニュースのトップはなんと言っても新型コロナウイルスの感染拡大。春の時点では人口の多い都市部の話で、過疎の田舎にはほとんど関係ないと思っていたのに、今ではすぐ身近に迫ってきています。いつもマスクをして、殺菌や消毒、手洗い、換気をして密を避ける。そんな生活が当たり前になりました。年末になって1年を振り返ってみたら、あまり良い年じゃなかったように思います。来年こそ、良い年に！

【令和2年（2020年）をふり返って・・・】

1月16日:数珠くり

長さ約8mの大きな数珠を持って、子供らが村の家々を回っていましたが、今年から集会場で老人会と一緒に開催しました。みんな輪になって、大数珠を手に鐘の音にあわせて「じゅずくり、なんまいだ〜」と唱え、楽しい時間を過ごしました。

2月16日:野生動物足跡さがし

雪上の野生動物の足跡を観察するつもりが、雪が全く無くてアテが外れましたが、猪の獣道や糞、ヤマアカガエルの産卵などが観察できました。お昼は猪汁と鹿肉の焼肉を食べました。

3月20日:春の食べれる野草さがし

春の陽気に伸びてきた野草の中から食べれる山菜を見分け、採取して天ぷらにして食べてみました。シカの食害で野草が無く、柵で囲った畑の近くでやっと見つけることができました。

4月:新型コロナウイルスの緊急事態のため行事を中止。

公民館行事として「春の野草のお花観察」を計画していましたが、中止にしました。

5月:新型コロナウイルスの感染予防のため行事を中止。

公民館行事として「春の遠足」を計画していましたが、中止にしました。

6月20日:ホタルとカエルの夜間観察

コロナの緊急事態もおちつき、ようやく令和2年度の行事を実施することができました。夜になるとカエルの鳴き声やホタルが発生し、夜間観察にはいい季節となりました。オタマジャクシからカエルになりたてのシュレーゲルアオガエルの子どもやカジカガエルの鳴き声が聞かれ、ゲンジやハイケボタルを観察することができ、参加者も29名と大盛況でした。

7月18日:子ども会・青推協合同、資源ごみ回収

早朝より、子ども会と青推協の合同で資源ごみの回収作業を行いました。家々から回収した古新聞や雑誌、ダンボール、アルミ缶などは4トントラックにいっぱいになりました。

8月:コロナの感染予防のため、行事を中止

「川の生き物観察と川遊び」を計画していましたが、新温泉町内で初の新型コロナ感染者が出たため中止にしました。

9月13日:夜の鳴く虫の観察会

夜になると虫の鳴き声がつるさいぐらいになりました。小雨が降っていましたが、鳴く虫を観察しました。コオロギやバッタ、カマキリ、さらにはサワガニ、ヤマビルもいました。

10月18日:芋ほり体験と畑の生き物観察

公民館の近くの畑でサツマイモを収穫しました。今年は大豊作！焼き芋も食べました。

11月14日:つるでかごを作ろう

アケビの蔓などを使って、大人と協力して、世界に一つの素敵なかごを作りました。

12月:コロナの感染予防のため、行事を中止

コロナの第3波流行で、感染者が増加しており、「芋煮と冬の里山観察会」を計画していましたが、中止にしました。

一年を振り返ってみて、今年には新型コロナウイルスの影響で行事の中止が相次ぎ、思うような活動ができず残念でした。来年は良い年になって欲しいですね。



1月、みんな輪になって数珠くり



2月、ヤマアカガエルが産卵



3月、採取した山菜を天ぷらに



6月、夜間観察に出発



9月、夜間のカマキリは眼が黒い



11月、個性的なつるかごが完成



10月、今年のサツマイモは大豊作

